

# 弁論部

現部長 南 愛  
前部長 目加田飛鳥  
顧問 芳野・太田 先生

弁論大会において、出場者は「弁士」と呼ばれる。しかし、「弁士」という称号を単に出場者の総称とするのは間違っている。

壇上で臆することなく、会場を自分のものにできる人。大勢に語りかけるのではなく客席の1人1人と対話ができる人。そして聴衆の心にいつまでも余韻を残す人。それこそが弁士であり、私たちの究極の目標である。

大衆の前に立つということはある意味恐ろしいことだ。緊張もする。中途半端な気持ちで人前に出ることは許されない。しかし、自分の中から湧き起こるあらゆる恐怖を克服して初めて、目標に一步步近づけることができる。大会では最終的に、弁士に順位をつける。しかし理想の弁論を追い求めるたびに、最大の敵は他の弁士ではなく自分自身であるということに気付かされる。

理想の弁論をするには、そして最高の弁士になるためには何をすべきか。弁論同好会が発足して11年、私たちはひたすらそれを追求してきた。その結果、全国大会に5回出場し、4人の先輩が上位入賞を果たした。

今年度、弁論同好会は「部」になった。先輩のような最高の弁士になることを目指して、私たちはこれからも努力を重ね、自分自身との終わりのない戦いを続けていきたい。

